

文化産業論

國彦の西村・弁護士う闘う

ゴルフ版経済敗戦を総括する(5)

N:N弁護士(弁護士経験42年)

A:N事務所で修習中のA司法修習生(来年弁護士登録予定)



西村國彦(にしむら・くにひこ)

N・ハゲタ力は利益を全部持つていい、労働者に分配しないから日本との格差がとてもなく拡大したというのだ。

A・確かに、労働分配率と言つて、企業などが生み出した価値（付加価値）のうち人件費の占める割合の問題ですね。

N・ほう、君はよく勉強しているね。確かに、小泉さんは失業や倒産を恐れずに行るのが構造改革だと、かつてよく言っていた。

雇用維持は、戦後の日本では、絶対守るべき聖域だった。でもその一方で、今の日本にはすぐ動かせるお金を1億1000万円以上持っている富裕層が300万人以上い

N：あの時代、裁判所にも政府圧力がかかるつていた雰囲気を感じた。
大手の法律事務所が倒産部出身裁判官や倒産村所属の有力弁護士を雇つて、裁判所の倒産専門部によく出入りしていたからね。

A：裁判所に限つて、そんな政治圧力は無関係だと信じてましたか。

N：あの当時、例えばゴーラードマン・スポンサーの案件に対立候補のスponサーをつけると、東京地裁裁判長が対立候補に不利になるよう意図的に手続を誘導していくフシがある。

A：そんなんことあるんですか。

N：僕も信じられなかつたが、債権者集会という公の場で、裁判長が

裁判所が使つてしまつたわけだ。

そもそも民事再生施行当初は、再生計画案の対案提出すら、裁判所は許さなかつたのだよ。

A：裁判所というのも、強力な権力機構なのですね。

N：裁判官も任命は内閣がするわけで、時の政治的な流れには敏感なさ。政府がつくったRCC（整理回収機構）が事件を持ち込んでくれば、腰の引けた日本企業より、国策に沿つてリスクマネーをすぐ出してくれるハゲタカグループをスポンサーにした方が早い。

A：ハゲタカのほうは「密約」に協力するわけだから、大もうけは約束されていたわけですね。

債権譲渡のマジック

バブル期の不良債権整理は、ヤクザ手法を国家が公認したこと、その後に多大な犠牲を強いた。会員がたくさんおり巨額の抵当権がついているゴルフ場のような物件は、値段がつきにくい。

いのリスクを減らす
上記債権を購入。
場売却を実現し
仮に、数億円で
いていると、何と

そんな抵当権付債権を二束三文で購入する（債権譲渡を受ける）のは、回収のリスクをとれるものだけだ。外資系ファンドやRCC（整理回収機構）は、会社更生法をやれば回収可能とサインを出し合い（お互理解しにくいマジない日本民法を逆屋たちが裏社会で方を、裁判所は認

・ 小原正樹の構造改革による不良債権処理だと森永さんは言う。あの時メディアも一緒になって、つぶす必要が無い企業を軒並みつぶして、一束三文でハゲタカに売り渡したことが原因らしい。

A：へー、その人たちは働くなくていい人たちですね。1億総中流社会ではなくなったのですね。

最高裁のつづいたマーキュアルを機
読みして、ゴーリードマンを助ける場
面すらあつたのだ。マニユアルは会
社更生法の申立がない民事再生用
のものだったので、それを会社更生
がある事例で棒読みしたから、「民
事再生が可決認可されないと破産

上わけ)、超安値で金融機関から
社更生法の入札で高額でゴルフ
うけをした。
った1番抵当が極度額40億円づ
意円回収できたのだ。常識では
クだが、債権譲渡の対価を問わ
にとるやり方。これは本来、事件
っているヤクザ手法。そんなやり
のだ。

34兆円はどこに消えたのか? 誰が損をして誰が得をしたのか?

N：うん、預託金の方は経産省の資料がある。1997年11月現在の預託金総額は10兆2055億円。7年後の2004年11月には5兆7756億円に減少している。A：消えた預託金は7年で4兆4000億円ですか。

■の公表不良債権割合は
発表みたいなものだし、金融機関
は、みな不良債権飛ばしで真相を
隠していたからね。

A：本当にグレーですね。

N：しかもこの一割強のゴルフ場
は、日本全体のゴルフ場売り上げ
の2割を稼ぐというのだ。

「ゴルフ場の貧富の差と言うべき
か、格差と言るべきか。ゴルフ人口
激減の世界的傾向の中で、日本の
過剰ゴルフ場は、生き残りをかけ

A..とんでもござりますが、
N:この20～30年で、人口も労働力
もわずかだが増えているのに、日
本の世界に対するGDPシェアが
3分の1(18%から6%)に転落し
たらしい。
A..それはどういうことですか?
N:わかりやすく言うと、普通並み
の経済成長をしていたら、この30
年でわれわれの所得は今の3倍に
なっていたということらしい。

1 日本のゴルフ場数（2018年12月）
2 バブルとその崩壊…（同号）
3 金融機関の貸出業績書は何故公開されないのか？（2019年1月号）
4 最高裁判所は、原則として、貸出業績書の公開を認めない（同号）
5 日本のゴルフ場のバブル期の価値は？（2019年2月号）
6 バブル経済崩壊後の評価は？（2019年3月号）
7 34兆円はどうして消えたのか？誰が損をして誰が得をしたのか？（本号）
8 日本のゴルフ版経済敗戦（次号）

たゴルフ場を担保にとつて金融機関がお金を貸し付けるなんて、全くおかしいこと。でも当時、金融関係者もゴルフ場会社も、正常な感覚を失っていたのだ。だから両方もとも見事に不良債権化した。

「ゴーラードマン・サックスほかのアンドに相応の利益が流れたと目るのが常識だろ。まさに日本独自の預託金システムは崩壊し、会員権は紙くず化。外資系だったアコーディアとPGMが、次々日本のゴルフ場の一割以上を買収したのだ。」

N:こちらはよく分からぬ。お役

A:金融債権の方は?

日々のぎを削っている。

A..そんな先生の考え方をしている人は、ほかにもいますか。

N..そのあたり、探していたのが、最近見つけた。

A..どんな人でしよう。

N..NHKのNEWS WEBで平成時代を「とてつもない大転落」『転落と格差の30年』と形容した鶴永卓郎さんだよ。

10